

平成24年度 東京都立町田工業高等学校 学校経営計画

校長 高松 清

1 目指す学校像

『総合情報科高校』として、情報活用能力を育て、実践的な職業教育を推進する。

自らの夢の実現に向かって主体的に学び、高い志をもって、国際社会で活躍できる人材を育成する学校を目指す。

そのため、「ものづくり人材の育成」「わかる授業」「希望進路の実現」に重点を置き、教育活動を展開する。

生徒は、学習・学校行事・部活動等に主体的・積極的に取り組む中で、集団への帰属意識や他を思いやる心をもち夢や進路希望の実現を目指す。

教職員は、『一すべては生徒のために一』をスローガンに、学校経営計画のもとにベクトルを一致させ、生徒の学力向上・自律的な生活態度の育成・希望進路の実現に向け、より一層高きを目指す専門職集団となることを目指す。

2 中期的目標と方策

【学習指導】

(1) 分かる授業を目指し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

ア 生徒のつまずきを明らかにし、分かる授業を展開する。そこから考えさせる授業、考えたことを表現させる授業を展開する。

イ そのなかで、学ぶことの喜びや意義を見出し、主体的な学びへとつなげることのできる生徒を育てる。

(2) 教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上を図る。

ア 個々の教員の取り組みから教科としての取り組みへと発展させる。

イ 具体的には、日常的な生徒の取り組み状況、習熟度別授業の実施状況、定期考査等の分析結果、生徒による授業評価結果等から教科として必要な取り組み観点を明らかにする。これにより、授業、日常の補習、長期休業日中の講習等を教科として発展させるマネジメントサイクルの確立を目指す。

ウ その結果として、組織的に生徒の学力向上を成し遂げる。

(3) 平成25年度の新学習指導要領実施を見据えた新教育課程の編成を行う。

ア 教育課程委員会で全校的視野に立って検討する。

【生活指導・保健指導】

(1) 生徒の日常に目を向け、生徒と向き合い、自律的な生活態度の育成を図る。

ア 頭髪や服装などの身だしなみ指導やあいさつの励行など、教職員の一致した継続的な指導を行う。遅刻の実態把握とその是正指導を行う。

(2) 生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底する。

ア 学校保健計画に基づき、保健管理・保健教育を適宜・適切に実施する。

イ 教育系職員と行政系職員とが連携して、安全管理・環境美化に努める。

(3) 地震などの災害に対する防災教育を充実させるとともに、生徒に自己の役割を認識させ、社会に貢献する意識の涵養を図る。

【進路指導】

- (1) 最後まであきらめさせない進路指導を貫く。
 - ア 社会人としての職業観、勤労観、規範意識を育成する。
 - イ 就職、進学ともに進路希望を実現させるための進路指導システムを定着させる。
- (2) 進路指導をより一層充実・発展させる。
 - ア 年次別実施する進路講話、進路ガイダンス等の一層の充実を図り、入学時から学習・生活・進路への意識を高める工夫を絶えず行う。
- (3) キャリア教育を充実させ、生涯にわたる在り方・生き方について考えさせる。

【特別活動】

- (1) 部活動の一層の活性化を図る。(放課後の生徒の居場所作りを目指す)
 - ア 部活動への加入を奨励し、部活動加入率を向上させる。
 - イ 部活動ごとの日常のミーティングや全校集会等の機会を捉えて、部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持向上を図る。
- (2) 体育祭や文化祭等の学校行事の一層の充実を図る。
- (3) 生徒会活動・委員会活動の一層の活性化を図る。(生徒の活躍の場を拡大する)
- (4) 読書活動を推進する。
 - ア 生徒一人当たりの貸出冊数を増加させる。
 - イ 授業での図書館利用について条件整備を行うとともに、利用を促進する。

【募集・広報活動】

- (1) 募集・広報活動の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の向上を図る。
- (2) 学校説明会・学校見学会の工夫・分析調査、学校ホームページの一層の充実、中学校訪問、塾訪問、都立高等学校等合同説明会への参加、中学生体験授業・部活動体験を実施する。

【学校経営・組織体制】

各種会議を充実して一層の情報共有を図る。

- (1) 企画調整会議の機能を強化する。(学校経営方針の理解浸透と意見聴取の双方向性)
 - ア 企画調整会議の機能を高め、全教職員の情報共有や経営参画を進める。
- (2) 主幹会議の定例化を進める。
 - ア 学校経営上の課題について横断的に検討し、分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。
- (3) 分掌部会の充実を図る。
 - ア 週1回の分掌部会や企画調整会議資料の回覧、ICT機器を活用するなどして情報を迅速・確実に共有する。
- (4) 教科会の充実を図る。
 - ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、授業の改善へ反映させる。
 - イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。
 - ウ 各教科で、適時・適切に教科研修会を実施する。
- (5) 「経営企画室と一体」となった体制づくりを進める。
 - ア 来校者等への丁寧な接遇を行う。(相手が安心する窓口・電話対応)
 - イ 計画的・効率的に予算を執行する。(学校経営支援センターでの執行割合を適切に保ち、経営企画室の経営企画型機能を高める)

ウ 施設設備の定期的な安全点検・安全管理を徹底する。(リスク・マネジメントの強化)

エ 行政系職員から見た教育活動等への提言を行う。(共に高めあう教職員集団)

(6) 高い倫理意識をもった教職員集団と法規法令の順守(生徒・保護者の信頼を確立)

(7) 創立50周年記念式典(平成24年度実施予定)に向けた実行委員会の設立

3 今年度の目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

【学習指導】 学力向上推進委員会を中心として、全教科で「分かる授業」を徹底し、生徒のやる気を引き出す。

ア 生徒のつまづきを明らかにし、分かる授業を展開する。そこから考えさせる授業、考えたことを表現させる授業へと展開する。

イ 生徒の実態を踏まえた長期休業日中の講習を実施する。

ウ 平日の補習・講習の実態を学校組織として集約し、共有する。

エ 学力の到達目標を明確にし、生徒の学力をより一層向上させる。

【生活指導・保健指導】 「いつでも」「どこでも」「誰でも」指導を徹底する。

ア 身だしなみ指導(頭髪・服装に関する指導)やあいさつの励行を継続実施する。

イ 遅刻指導を全校体制で取り組む。

ウ 生活について生徒に考えさせる指導を継続すると共に、必要に応じて家庭との連携を図り、解決を図る。

エ 教職員で一致した生活指導を行う。(それぞれの方法で、ぶれない指導を)

オ スクールカウンセラーを有効活用し、生徒・保護者に利用方法を周知するとともに、保健部、特別支援教育委員会と連携して生徒個々に有効な指導方法で対応する。

カ 宿泊体験学習等の防災教育を充実させ、災害時における役割を認識させるとともに、安全に身を守る能力を育成する。

【進路指導】 「生徒の希望進路の実現」を果たす。

ア 学年集会、面談週間、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。

イ 生徒情報を共有し、担任・副担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。

ウ 進路講話、進路ガイダンス等をさらに充実させ、社会人としての勤労観・職業観を育む。

エ インターンシップを実施し、職業に対する理解を深めるとともに、将来の職業選択の一助とする。

【特別活動】 「生徒の帰属意識を高め、放課後の居場所を作る」

ア 新入生への部活動参加を奨励するとともに、2年次生の部活動継続を促し、活性化を図る。

イ 生徒会の自立的活動をさらに推進し、よりよい学校づくりへ向けて活性化を図る。

ウ 文化祭や体育祭等の学校行事の一層の充実を図る。

【募集・広報活動】 「入学者選抜における応募倍率の向上」

ア 総合情報科高校の特色を生かした各系列のものづくり教室や1日体験入学をさらに充実させ、工業・情報教育に関心のある応募者を増やす。

イ 小・中学生向けのものづくり教室等を充実させ、小中学校との連携を推進する。

【学校経営・組織体制】 「迅速な情報共有と知恵の結集で改善を」

- ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を高める。
- イ あらゆる機会を捉えて、高い倫理観と規範意識をもった教職員集団へ育てる。
- ウ 創立50周年記念式典（平成24年度実施予定）に向けて実行委員会を設立し、周年行事に備える。

（2）重点目標と方策

【学習指導】「分かる授業づくり」

- ア 授業改善（個々の取り組み及び教科としての取り組み）
- イ 授業に関する教科研修会の実施
- ウ 拠点校実習の実施

〔数値目標〕

- ・すべての科目において生徒の授業満足度70%（前年度 %）
- ・授業に関する教科研修会の開催学期1回（分かる授業作り）
- ・教員相互による授業参観を学期1回以上、年間3回以上実施

【生活指導・保健指導】「いつでも、どこでも、誰でも」指導できる体制と一致した指導

- ア 教職員の一致した厳しく温かな指導
- イ 保健部、特別支援教育委員会、スクールカウンセラーを中心とし、校内研修等を通して発達障害等に関する理解を深め、該当生徒への組織的な支援体制をつくる。

〔数値目標〕

- ・退学生徒の減少3%（前年度 2,9%）
- ・特別指導対象者数の減少
- ・遅刻指導を全校で取り組み、遅刻者数を把握（朝のショートホームルームでの遅刻の実態把握）し適切な指導を行う。月ごとに集計し、遅刻者数を減少させる。

【進路指導】「生徒の希望進路の実現」

- ア 最後まであきらめさせない励ましの指導を全校的に継続
- イ インターンシップの実施

〔数値目標〕

- ・進路決定率100%の実現
- ・資格・検定取得数480（前年度472）

【特別活動】「生徒の居場所の確保」

- ア 部活動の加入奨励と継続指導

〔数値目標〕

- ・部活動加入率75%（前年度77%）

【募集・広報活動】「本校を理解した生徒の獲得」

- ア 根気強いPR活動の継続

〔数値目標〕

- ・推薦に基づく選抜の応募倍率2.0倍 学力検査に基づく選抜の応募倍率1.3倍（前年度1.8倍、1.2倍）

【学校経営・組織体制】「PDCAマネジメントサイクルの実働化」

- ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を高める

〔数値目標〕

- ・すべての校務分掌（6部署）が学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施
- ・授業に関する教科研修会を学期1回実施